

第1学年3組 音楽科学習指導案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 章生 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00025743

第1学年3組 音楽科学習指導案

指導者 鈴木 章生

1 学習のくくり「環境・生活と音楽とのかかわり」（45時間）

2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

音楽科3年間でめざす姿

生活や社会の中に溢れる音や音楽、音楽文化とより豊かにかかわるために、音楽の多様性について理解を深めたり、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけたりするとともに、音楽を愛好する心情や、豊かな感性によって情操を培うことで、音楽的な見方・考え方にもとづいた音楽のよさや美しさを見いだし、味わうことができる生徒

音楽科3年間の共通テーマ

音や音楽、音楽文化とのかかわりを通して見いだす、音楽のよさや美しさとは

学習のくくり名

共通テーマ

・学習活動

心と音楽とのかかわり（3年）

音や音楽、音楽文化とのかかわりを通して見いだす、音楽のよさや美しさとは

- ・多様な音楽表現と自他の感情とのかかわりを探る。
- ・音や音楽、音楽文化と、生活や社会とのかかわりを探る。

文化・歴史と音楽とのかかわり（2年）

伝統を守り文化を継承する伝統音楽と、時代に合わせて発展し創造する音楽文化の価値と影響とは

- ・日本の伝統音楽と歴史とのかかわりを探る。
- ・ヨーロッパの文化・歴史と、音楽の歴史的変遷とのかかわりを探る。

環境・生活と音楽とのかかわり（1年）

環境・生活の中で生まれた音や音楽が果たしている役割とは

- ・生活の中の音や音楽の働きを自覚し、人の心とのかかわりを探る。
- ・諸民族の生活や環境の中で生まれた民族性と音楽とのかかわりを探る。

3 学習のくくり「環境・生活と音楽とのかかわり」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		育成する資質・能力の要素と 階層レベル		知識		スキル			情意	
		A 内容	B 方法	C 認知	D 身体	E 社会	F 興・関	G 追究		
ガイダンス (2)	《共通テーマと共通課題の理解》 ○自分たちの生活には、音や音楽が数多くかかわっていることを見だし、身の回りの音や音楽のもつ特徴や役割について考える。また、音楽がもつ文化的な価値や音楽を利用する意図について考え、今後の授業の見通しや、共通テーマや共通課題を理解する。(2)	3		2				2		2
		4		3		2		3		
つかむ学習 (35)	○学校生活で歌われる楽曲に対し、歌われる理由や、意味や価値について考えたことをもとに、曲想にあった歌い方を工夫しながら歌唱する。(6)	1 2	1 2	2	3	2	2	2	2	2
	○音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこと、感受したこととのかかわりについて考えながら鑑賞する。(4)	1 2	1 2	2		2	2	2	2	2
	○地域や国、民族によって独特な音楽が生じる要因を探るため、世界の民族音楽を鑑賞する。(3)	1 2	1 2	2		2	2	2	2	2
	○日本の伝統的な楽曲や俳句を鑑賞したり、歌唱したりして、音の響かせ方や音色の違いから日本人が愛でてきた音の特徴を考察し、日本人の大切にしてきたものとは何か見いだす。(3)	1 2 3	1 2	3	3	3	3	3	3	3
	○タブレットPCを活用して姿勢や糸への爪のあて方などを練習し、基本的な奏法を用いて箏の特徴を感じ取りながら演奏し、「さくらさくら」にあった音の響かせ方や、旋律・余韻等の伝統的なフレーズ感を知覚・感受するために、唱歌を用い、奏法を工夫する。(6)	1 2 3	1 2	1 2 3	1 2 3	2		1 2	2	2
	○表現したい「さくらさくら」のイメージになるよう、奏法による音色の違いを生かし、音のつながり、構成を工夫しながら「さくらさくら」の前奏を創作する。(本時2/3)	1 2 3	1 2	3	3	2	3	3	3	3
	○唱歌や芸道で学んだことを現代の楽曲や練習方法に生かせる場面を考え、曲想の工夫などに生かして演奏する。(2)	3		3	3	3	3	3	3	3
	○声の音色や響き、言葉の特質と曲種に応じた発声を理解するとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容とのかかわりを理解しながら合唱する。(8)	3		3	3	3	3	3	3	3
	追究する学習 (6)	《追究課題の設定》 ○共通課題を受けた追究課題の設定(1)環境や生活の中にある音や音楽が果たす役割について、追究課題を明確にし、追究方法について考える。	3		3		3	3	3	3
		《追究活動》《交流活動》 ○これまでの学習で広がった音楽的な見方・考え方を生かしながら、追究課題に取り組む。(5)	3		3		3	3	3	3
つなげる学習 (2)	《交流活動》《振り返りの記述》《振り返りの記述の交流》 ○これまでの学習を振り返り、共通テーマに対する自己の最適解をまとめたり、仲間と交流を通して考えを深めたりする。(2)									
	【期待する生徒の表れ】 ・環境・生活の中にある音や音楽について、今後どのようにかかわっていきたいかを、交流活動をして得た他者の考えをもとに、より深めて記述している。 ・環境・生活の中で生まれ、大切にされてきた音や音楽のよさや美しさを感じ、今後の生活においてそれらに気づき、音や音楽とのかかわり方について記述している。 など	4		4		2	3	4		

(2) 本学習のくくりでめざす生徒の姿と具体的な手だて

音や音楽は、人々の生活の場に存在し、様々な機能や役割をもっている。日本では春夏秋冬のそれぞれを愛で、音により季節を感じたり、季節の移り変わりや情緒をうたにしたりして親しんできた。人の一生といった視点においても、人生の節目で歌を歌うなど人生に寄り添って歌い演奏されている。民謡や民俗芸能音楽、祭りの音楽などは、そこに住む人々と生活と歴史の中で生まれ育まれてきた。これらは、意識するしないにかかわらず、必要かつ不可欠なものとして、生活の中にあり溶け込んでいる。現代社会においても、電子機器の信号音、CMに使われる音楽、電車の到着メロディなど、音や音楽があり、日常会話にいたっては、その言葉のリズムや抑揚などに音楽的な要素が含まれている。音楽と音楽にかかわる状況は、社会の変化を真っ先に映し出す鏡といっても過言ではない。本学習のくくりにおいて、環境・生活の中にある音や音楽について気づき、自他の心情とのかかわりを考え、深く味わうことを通して、音や音楽が生きる上での重要な役割をもつと認識することが、自身の音楽的アイデンティティを確立させるための基盤となると考える。

社会が加速度的変化を遂げグローバル社会の到来によって、大量の音楽情報が地球レベルで行き交う現在、BGMのようなある意味形式的に流れる音や音楽が当たり前となり、意味や価値を見いだしにくくなっている。また、古来より日本人が愛でてきた音や音楽に触れる機会が減り、それらの音や音楽と出会ったとしても、感性が働かないまま、聴き逃してしまったり、深く味わえず、音や音楽への関心が薄れてしまったりすることが懸念される。

柔らかな感性によって育まれる情操を大切に、加速度的に変化する時代の中でも、環境・生活の中にある音や音楽のよさや美しさについて気づき、深く味わうことで、音や音楽と自分とのかかわりを築いていこうとする態度を養っていききたい。また、今後の生活において、自身の身の回りの音や音楽環境を整え、音楽を生活の中に取り入れていけるよう自分なりの考えをもたせたい。

そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

環境や生活の中における音や音楽について、音楽的な見方・考え方にもとづき、よさや美しさを味わい、今後の生活においても、繊細に感性を働かせながら、それらの音や音楽に気づき豊かにかかわろうとする生徒

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組ませる。

まず、ガイダンスにおいて、自然の音や、身の回りにある音や音楽に耳を傾けさせ、それらから受ける心情をとらえさせることで、生活における音楽の役割について考えさせる。この活動によって、音や音楽のもつ特徴や、それらが醸し出す雰囲気、聴き手によって違う感受についておぼろげながらに理解させる。さらに、本学習のくくりの共通テーマや共通課題を提示することで、おぼろげながらに学習内容を理解させる。また、学習計画表を示し、今後の学習の見通しをもたせる。

つかむ学習では、学校生活の中の音楽を奏でる場面を想起させ、その意味や価値などについて、自分たちの目線だけでなく、聴き手の気持ちや、ともに歌う他者とのかかわりを考えることで、自律的な動機づけをうながし、考えを広げたり、深めさせたりしていく。鑑賞の活動では、日本人には、古来より愛でてきた音を美しく感じるだけでなく、雑音に感じられたり、複雑な不明朗に感じられたりする音に対しても、美しさや魅力を見いだしたり、深く味わったりすることができる繊細な感性があったことを、他者との交流活動を通して気づかせていく。気づいたことを生かし、箏曲の音楽表現や演奏技能を高めていくと同時に、日本人の美に対するとらえ方や芸道に対する考え方も高めさせたい。創作の活動では、箏の奏法による音色の変化を生かし、楽曲や自己のイメージにあった旋律を作曲するために、他者の意見を受け入れ、実際に音に出し試しながら創作することで、音や音楽とより豊かにかかわる心情を育ませていく。

また、学習のまとめりに学習計画表の気づきのメモを記入することで、共通テーマに対する自己の気づきを重ねさせる。既存の音楽的な見方・考え方から、新たに加わった気づきを結びつけていくことにより、共通テーマに対する自分なりの考えを深めさせる。

追究する学習では、共通課題をもとに自ら追究課題を設定し、つかむ学習で養った音楽的な見方・考え方を生かしながら、追究活動を行う。さらに、つなげる学習において、追究する学習で作成したレポートの交流活動を行う。交流活動を通して、音楽的な見方・考え方を深め、共通テーマに対する自分なりの最適解を見いださせる。

(3) 本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの 階層レベル)	環境や生活の中で生まれた音や音楽が果たしている役割とは (レベル ⁴)
共通課題	繊細に感性を働かせながら、環境や生活の中にある音や音楽に気づき、その音や、音楽と豊かにかかわるためにはどうしたらよいかレポートにまとめよう。

4 本時について (本時 26 / 45)

(1) 本時の目標

【音楽表現の創意工夫】	自己のイメージを表す旋律になるよう、箏の奏法による音色の違いを生かし、音のつながり方、曲の構成を工夫しながら、「さくらさくら」の前奏を創作することができる。 (A B 3) × (C 3) ・ (D 3)
-------------	---

(2) 学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
●前時までの学習内容を確認し、箏曲「さくらさくら」を演奏する。 ●学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。	・演奏に際し、箏の基本的な奏法を確認させる。
自分のイメージする「さくらさくら」にするための前奏を創作しよう。	
●表現したいイメージを伝えるための演奏の工夫について実際に音を出し、試しながら考える。 ●創作した前奏部分をペアの相手に披露し、鑑賞しあった旋律について批評し合う。 ●改善点をふまえ旋律を推敲する。 ●ペアを変え、自分の旋律を披露し、批評し合いながら再考したものをワークシートに記入する。	・イメージを表すポイントとして、箏の奏法による音色の違いや音楽の構成(反復・変化・対照)、音のつながりが重要であることを教師の模範演奏を聴きながら感じとらせる。 ・鑑賞した生徒は感じたイメージを奏者に伝え、奏者が思い描いているイメージとの共通点や相違点について話し合わせる。 ・演奏した生徒は自分のイメージと、作曲の工夫や、選んだ奏法の意図について鑑賞者に伝えさせる。 ○批評が滞っているペアには、イメージを表すポイントの視点を明確にさせ、もう一度演奏を聴き、批評するように助言する。 ○創作活動が滞っている生徒には、表現したいイメージを確認させ、いくつかの奏法を試し、音を出しながら創作するように助言する。
※自己のイメージを表す旋律になるよう、箏の奏法による音色の違いを生かし、音のつながり方、曲の構成を工夫しながら、「さくらさくら」の前奏を創作している。	・自分のイメージする「さくらさくら」がどのような奏法や工夫によって表現されているか交流させる。 ○批評が早く終わってしまっているペアには、奏者のイメージが旋律により表れるようにするためにはどのように工夫すればよいか具体的な案を提示するように伝える。
●本時の学習を振り返り、共通テーマについて考えたことや気づいたことを学習計画表の「気づきのメモ」に記入する。	◇本時の目標について、※印のような生徒の表れが見られたか。